

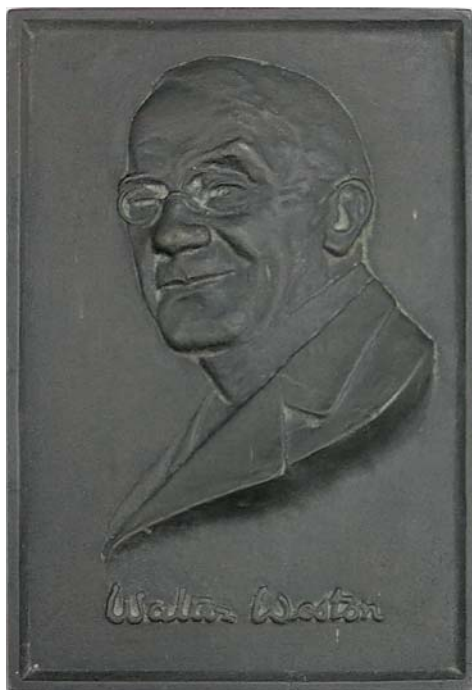


東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 136 Jan. 1. 2014

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部
〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMC
電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924
郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」
銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店
普通1222073 「日本山岳会東海支部」
編集 星 一男
印刷 (株) 浅井隆文社



表



裏

昭和十二年神河内(上高地)に建設されたW・ウエスタン師の顕彰記念碑に埋め込まれたレリーフのレプリカ。写真は、原寸の1/2大。東海支部員村瀬恭平会員蔵。詳細は本文。

目次

○年頭の挨拶	小川 務	1	○ナイロンザイル事件資料、 名大博物館へ	西山秀夫	11
○『W・ウエスタン師のレリーフ』に レプリカがあった!!	西山秀夫	2	○リレーエッセイ 2-1	長坂 博	12
○2013ゴザフェス	野崎雅之	4	○委員会報告		
○ボランティア委員会、 秋の二つの行事	前田隆久	5	山行委員会	柴田清康	13
○第5回森の音楽祭2013		7	自然保護委員会	川合鋸一	13
を振り返って	毛利邦男		青年部・東海学生山岳連盟	鎌倉源助	15
○第2回支部友会ミーティング			総務委員会	佐野忠則	16
朝明茶屋 報告	酒井 広	8	○東海支部俳壇	西山秀夫	16
○支部友コーナー	酒井 広	9	○会務報告	毛利邦男	17
○同好会紹介コーナー	佐野忠則	10	○会員異動 (ルーム日誌)	酒井 広	21
			○INFORMATION		21
			○編集後記	星 一男	22

年 頭 の ご 挨拶

支 部 長 小 川 務

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、台風等自然災害に苦しめられた年であった一方、喜ばしいことがありました。6月26日にユネスコの世界遺産委員会で「富士山」が世界文化遺産に登録されました。また国内では、11月22日に、超党派の議員連盟が祝日「山の日」を毎年8月11日にすることを決め、今年の通常国会に祝日法の改正案を提出する予定とのことです。山岳会関係では、「山」No. 822で佐野忠則公益法人運営委員長（東海支部所属）が報告しているように、日本山岳会が優遇税制の対象法人として承認されるなどありました。

さて、東海支部は、平成23年の支部創設50周年以後、会員増強、若返り化、次期リーダー育成などに取り組んできました。この間の正会員の入会状況を見ると、(21年度10名、22年度18名、23年度61名、24年度41名、25年度10月まで29名)で計130名の入会者がありました。その内訳は支部友からの転籍者96名、東海学生山岳連盟（東学連）や東海ユースクラブなどから計35名が入会し、昨年10月時点の支部員総数は計331名と増強しました。さらに、会友として①支部友53名②東海ユースクラブ員25名③東学連（15大学約100名）④猿投の森づくりの会100名が在籍し、正会員と会友の合計は609名となりました。

以下に、最近の会員増強、若返り化への取り組みの概要を示します。今後とも皆様のご支援をお願いします。

(1) 東海学生山岳連盟（東学連）の育成

今年度活動として、国内山行多数（北アルプス・中央アルプス・南アルプス・鈴鹿・御在所岳等）、ゴザフェス開催、本部日中韓学生合同登山への参加。海外山行は、25年3月ネパール・クスムカングル峰（6369m）南東壁完攀及びアイルランドピーク登頂。

(2) 青年部

青年部は、「東学連」などから正会員になり、さらに精鋭的な登山を目指す若手グループ。次期リーダー候補である。国内山行（北アルプス・槍・穂高・剣合宿・明神・御在所・錫杖・八ヶ岳・本部剣登山技術研修会参加・12月初旬

に雪上訓練）。次年度活動予定（6月青年部サミット・上高地山研にて）。海外登山として、インドヒマラヤ6千メートル峰を検討中。

(3) 山ガール講座の開設

毎月一回の講座と現地山行。25年度からは雪山を含め、通年の登山。講座卒後は東海ユースなどへの入会を勧誘。

(4) 東海ユースの設立

原則40歳以下。男女を問わず、向上心のある登山初心者を対象。25年度は奥美濃・鈴鹿・御在所岳・仙丈ガ岳等で山行。在籍期限2年。

(5) 登山教室の開講

中日文化センター・朝日カルチャー教室・NHK文化センターで開講。月1回の山行と机上学習。登山教室卒者は、正会員または支部友会員として東海支部に受け入れる。若年者は東海ユースへ受入。

(6) 支部友会

東海支部の登山教室の終了者、さらに研鑽を積もうと努力する者、在籍期限3年。その後は支部に入会するか、退会する。（三重県南部・鈴鹿・三河山地・琵琶湖湖北等で、月2～3回の山行を実施）支部友委員会が山行案企画。

(7) 山行委員会

第1山行グループ（支部員・支部友の山行。三重県南部・三河山地・琵琶湖北・長野県で月2～3回の山行を実施）。亀の会（65歳以上の支部員を対象、現在会員58名、長野県内、三重県南部、愛知県内などでの月1回の山行を実施）。

最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍、そしてこの一年が東海支部の飛躍の年になりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



『W・ウエストーン師のレリーフ』にレプリカがあった!!

西山秀夫

尾上「西山君！君、中村けいぞうという人の名前を知らんか、戦前の会員だよ、支部員の村瀬君が孫に当たるんだ。こんなものがありますよ、とウエストンのレリーフがあるというんだ」西山「いや、聞いたことはないですねえ」尾上「ちょっと、調べてくれんか、戦前に北アルプスの映像を残した人かな」と。「ん？」「じゃあ、ルームへ行きます」とやりとりがあって、受け取ったのがW・ウエストンのレリーフの写真（実はレプリカ）と寿像建設の顛末のコピーだった。北アルプスの映像については後述する。

私の事務所で『山岳・総索引』のバックナンバーの入会者一覧を調べるが、中村けいぞうを見つけることはできなかった。そして、12月2日の夜、ルームで孫にあたる支部員の村瀬恭平さんにお目にかかり、取材させていただいた。その時、村瀬会員の持参してくれたレリーフ、実はレプリカと『山岳』（16・1、16・2、16・3）の原本の綴りを拝見した。この山岳の中の会員名簿に中村慶介（779番）の名前のあるのを指されてあっと驚いた。中村けいぞうは中村慶蔵で慶介は幼名であった。入会時は大正10年で、38歳だったので幼名で入会したのだった。

あの上高地にあるW・ウエストンのレリーフにレプリカがあったとは初耳であった。そしてなぜこのレプリカが中村慶蔵の手に渡ったのかが謎であった。これを調査するべく『山岳』だけでなく、尾上氏所蔵の会報の復刻版もお借りしてウエストンの語彙を拾って読み込んだりして経緯を調べてみました。その結果、次の事柄が判明した。

このレプリカは、昭和12年上高地に設置したレリーフのものであること。そしてこの設置費にあてるため、レプリカを40個製作し篤志家に1個10円で購入してもらったこと。このレリーフは、太平洋戦争に伴い秘かに



『山岳』16年1,2,3

取り外されルームに保管したが、空襲で一部を損傷、修復して昭和22年再度上高地に設置し直されたこと。そして現在の丸いレリーフは、同じく佐藤久一朗の手によって新たに製作され設置されたものであること。更には、損傷して修復されたレリーフは、現在JACのルームに保管されていること。などである。

結論として、寄付を募る目的で製作された40個のレプリカの 하나가、中村慶蔵所蔵のものであったのである。

それでは中村慶蔵がどんな人物だったのかを村瀬恭平さんから聞き書きしたことを記そう。



中村慶蔵（慶介）HP
「愛知のエースネット」より

何と！中村慶蔵はみそ・しょうゆの製造で有名なイチビキの創業者であった。1883（明治16）年に愛知県御油町で生まれた。1919年に大津屋株式会社（昭和36年にイチビキに改称）を設立し、新製法のみそ・しょうゆの生産に

乗り出す。1970（昭和45）年に88歳で御油町に没した。より詳細は「愛知のエースネット」を検索していただくとよい。

慶介は、父の初代慶蔵から東京帝大に進学させられ、鈴木梅太郎に師事したという、いわば醸造学の草分け的な存在であった。昔から酒屋、しょうゆ屋は資産家が多かったから当時の日本山岳会に入会したのは道楽であり、今の経済人のサロンに似たものではなかったかと思う。

当時の名簿には岡崎の志賀重昂（37番、名誉会員）、柳田國男、福沢桃助（1868-1938、日本の電力王と呼ばれた）、藤山愛一郎、日高六郎、榎有恒、小島久太（烏水）、赤沼千壽、百瀬慎太郎、伊藤孝一（481番）らの錚々たる会員名が連なる。

尚、中村慶介（慶蔵）は、戦前からの古い会員であることから、昭和36年の東海支部設立にも関わり設立会員の一人としても名を残して

いる。

ここで伊藤孝一にも触れておく。検索エンジンで「北アルプス 伊藤孝一」で検索すると伊藤忠ソリューションズのHPがヒット。「大正末期の冬季北アルプス大縦走の山岳映像が平成の今、作品となって生き生きと甦りました」の題でJAC会員の故羽田栄治氏の解説があるが、紙数の関係で部分のみコピーする。『名古屋の素封家・伊藤孝一という人です。大正12年(1923年)、伊藤は山仲間である信州・大町の旅館「對山館」の主人・百瀬慎太郎と北アルプス・燕小屋(現・燕山荘)の初代経営者・赤沼千壽らの協力を得て、積雪期に北アルプスの針ノ木峠から立山越えに挑戦、それを35mm映画フィルムに収めようという壮大な計画を立てました 中略。

「雪の立山・針ノ木越え」を終えた伊藤は、さらにスケールアップした「雪の薬師・槍越えを計画しました。これらをみな成功させた登山家でした」以上。

富裕層、実業家、学者、政治家など、当時の山岳会の雰囲気伝わって来ようというものである。中村慶介は家業のみそ・しょうゆの生産を守りながら、このような人らに混じって大正昭和の時代を生きたのである。

中村家と村瀬家のつながりは、子・村瀬恭平←母・中村芳子(86歳)←祖父・中村慶蔵(慶介)となる。中村芳子は酒の蔵元の当主村瀬小右エ門氏と結婚し村瀬家に入る。レプリカは祖父慶蔵の死去に伴う形見分けで山の好きな村瀬恭平さんの手に渡った。祖父の山好きな性格を受け継がれたのが因縁だったのだろう。

レプリカの概要 (今号支部報の表紙写真)

材質：ブロンズ製 浮彫り胸像

長さ：縦170mm、横116mm

表は実物を縮尺したもの。裏は斜めに立てて飾れるように支持用のプレートがついている。その下には右書きで、『ウォルター・ウェストン師の像』とある。

『昭和十三年於神河内 日本山岳会の建』

「の」はロシア語のような変体字で想像である。製作者は、事の経緯から推して実物と同じ佐藤久一朗氏であろう。

寸法以外の実物との違いは、裏の文字が浮彫りではなく彫ってあること。於神河内の彫りが

ないこと。名前の間の「・」がレプリカは「-」になっていることであって昭和12年設置のレリーフの写真と同一でその縮小版に間違いはない。ちなみに現在上高地に設置してあるレリーフは、正式には3代目となる。

最後に、村瀬恭平会員には貴重なレプリカと情報とをいただき支部報編集委員を代表して御礼申し上げます。

ちなみに村瀬恭平会員は愛知県江南市で営む蔵元山星酒造の当主であり、ご母堂の芳子様(中村慶蔵の娘)は名誉会長として経営を見守っておられる。86歳の今も元気に車を運転されるそうである。山星酒造のHPには天保10(1839)年の創業とあり、174年という老舗である。

緊急アピール遭難事故多発！！

支部友会・山行委員会
登山教室委員会・亀の会
合同集会のお知らせ

近年鈴鹿を始めとする低・中級山岳での遭難事故が多発しています。支部の各種山行にも遭難事故が起きる危険性ははらんでいます。

その実態の認識と事故防止対策を学習していただく集会を催します。

是非ご出席下さい。

テーマ	鈴鹿を例とした低・中級山岳における遭難事例と遭難事故防止対策
日時	平成26年2月13日(木) 午後7時～9時
場所	東海支部ルーム
講師	野呂邦彦氏(東海支部遭難対策委員長) 居村年男氏(三重県岳連遭難対策委員長) 小古真也氏(三重県警察警官)
内容	①遭難事故の原因と統計 ②遭難事故の実例と救助 ③遭難事故防止対策

2013 ゴザフェス (GOZAI SHO FESTIVAL)

『大学の枠を超えて登山の夢を育む場に』

東海学生山岳連盟 野崎雅之 (名古屋工業大学大学院)

全国の山好き学生、この指と一まれ！

東海地方の大学山岳団体が加盟する東海学生山岳連盟（東学連・加盟9校）が9月28～29日、鈴鹿山脈の御在所山（1212^米）をフィールドに、今年も交流イベント『ゴザフェス』を開催した。学校も登山レベルもさまざまな学生たちが集まり、体験クライミング・懇親会・トレッキングなどを通し、親交を深めた。



▲御在所山山頂での集合写真。参加大学は名古屋外国語大学・岐阜大学・南山大学・愛知学院大学・名古屋工業大学・中央大学・東海大学・京都府立医大・日本山岳会東海支部青年部・JAG-YOUTHとOBの10団体、42名。

28日朝9時、三重県の御在所山裏道登山口は、僕ら若い岳人であふれ返っていた。早速、実行委員長から荷揚げの指示があり、この夜の懇親会で使われる鍋や食材、クライミングで使われる登攀具などを、ベースとなる藤内小屋まで次々と担ぎ上げた。荷物の中には、登山では使わないモノも含まれていた。1袋25^キ入りのセメント袋だ。ゴザフェスでは、小屋への荷揚げの手伝いは恒例となっている。屈強な？ 若者たちが「我こそが！」と自分の大きな荷物にセメント袋をくくり付け、小屋まで運んだ。もちろん僕もセメント袋をザックに入れ、小屋への行列の最後尾をゆっくり登った。すると、小屋に自分の荷物を降ろした後輩たちが「代わりに持ちます！」と下りてきた。「なんと頼もしく、かわいい奴らだ」と思ったのもつかの間、セメント袋が見える人のところに群がり、ザックの中にしまい込んだ僕には一向に気づいて

くれない。結局、汗を噴き出しながら、最後まで自分で運ぶことになった。

首都圏や関西からも参加

ゴザフェスは、学生たちの親睦と結束を強めるイベントとして、「東学連」が活動を再開した翌年から催され、今年で4回目。加盟校だけでなく、首都圏の中央大と東海大、関西の京都府立医科大の学生が駆けつけ、合計10団体、OBも含めて総勢42人が参加した。

初日の「体験クライミング」には、懇親会を準備する学生以外の多くが挑戦した。場所は藤内壁の一ノ壁。初心者には簡単なルートをトップロープで登った。登り切った彼らは、上で確保していた僕とハイタッチをすると、満足感いっぱいの笑顔を見せた。それぞれがクライミングを楽しんでくれたようで、僕もうれしい。ある学生は「自分だけではこんなところに来れないから、この機会にクライミングが体験できてうれしいです。今まで近づくこともできなかった岩壁を登り切ると、こんな景色が広がっているんですね！」と東に広がる四日市の街の景色を堪能していた。

夕方になり小屋へ戻ると、既に、懇親会の準備が整っていた。この日のメニューはちゃんこ鍋とチゲ鍋とごはん。「東学連」の高橋顧問の乾杯を合図に懇親会が始まった。自己紹介や即興で歌や踊りなどを披露する出し物大会が始まり、星空の下の宴は終始、盛り上がった。

懇親会が終わる頃、誰の合図があったというわけではなく、クライミング班のミーティングがパーティーごとに始まっていた。騒いで終わりではなく、しっかり明日の準備を怠らないのが、山に生きる学生らしい。

御在所でも秋はじわじわと深まっていて、夜風はそろそろ「涼しい」から「冷たい」と言わねばならない、といったところ。夜が深まるにつれて翌日に備えて早めに寝袋に入る者がいる一方、語り足りない者は会場を小屋の外から中に移し、小屋のご主人も交えて遅くまで語り合った。その部屋を暖めていたストーブもまた、僕らが一昨年のゴザフェスで、ひいひい言いながら担ぎ上げたものだ。

29日は、2つのクライミングコースと1つのトレッキングコースを用意し、登山技術のレベルに合わせ、それぞれが山頂を目指した。昨年、クライミング班が「渋滞」に巻き込まれ、山頂の集合時刻に間に合わなかった反省もあって、前尾根のクライミングコースに参加する学生たちは、暗いうちから出発した。夜明けの薄明かりにヘッドライトの明かりを加え、5時半には先頭パーティーが前尾根に取り付いた。



▲ガスの中でもクライミングを楽しむ東海大と名古屋工大の混成パーティー。

パーティーの多くは、学校の枠を越えて親睦を深めるために大学混成のパーティーだ。あるパーティーのリーダーは「このピッチはやさしそうだから君に任せるよ。何かあった時はフォローするから」と他大学のパートナーにリードを任せ、経験を積ませていた。大学間で技術

が伝達、共有されることも『ゴザフェス』のような交流イベントだからこそだ。

天候にも恵まれ、12時半には無事、山頂に集合。記念撮影をし、再び藤内小屋へ向けて下山した。

レベルが違ってもいい

「レベルが違ってもいい。同世代の人が集うことに価値がある」

これは明文化されてはいないが、「東学連」の基本理念だ。

登山は厳しくなるほど互いに命を預け合うスポーツになり、それ故に山岳団体はある意味、閉鎖的になりやすいといえる。しかし、「東学連」から3年連続で送り出しているヒマラヤ隊も、昨年の日本山岳会学生部インド・ザンスカール遠征隊も、数大学の混成隊だった。どの遠征も同世代が集まり、夢を語り合った時に生まれた種が花開いた結果だ。志は高くとも、決して1人では叶えられなかった「夢」が融合し、芽吹かんとする場所こそが、『ゴザフェス』のような交流の場であり、「東学連」なのだ。

今年は、前述の2つの海外遠征に参加した隊のメンバーも数人参加してくれた。彼らから遠征の話聞いた学生は、自分がどこかの山で挑戦している姿を、より身近に想像しているだろう。

全国の山好き学生の諸君!!

是非、来年も『ゴザフェス』にご参加を。

ボランティア委員会、秋の二つの行事

ボランティア委員長 前田隆久

2013年秋、ボランティア委員会は、二つの行事を予定し、半年間、準備を進めてきました。10月19日(土)の「親と子のふれあい登山教室」は雨天のため中止となり、11月3日(日)の「ブラインド登山」のみの実施となりました。この二つの行事に関して報告をします。

「親と子のふれあい登山教室」

前日15時の時点での天気予報が50%以上の降水確率。詳細な天気予報を見てみると、朝9時頃には雨が上がる可能性もあり、全体としては回復傾向でした。ただ、幼稚園としては、雨がわかっているならば、通常、行事は中止を考えるとというルールがあり、また、登山ということもあり非常に難しい判断を山岳会に委ねられま

した。ボランティア委員会委員長、副委員長で協議した結論は、雨が後ろに伸びる可能性と、低山とはいえ「変わりやすい山の天気」であるということ、特に、ちょうど気温が下がってきた頃でしたので、雨に濡れた場合の100人近い幼稚園児の健康と、夜半から降る雨で、登山道の状態が良くないことを考慮し、中止としました。

名古屋市内では9時頃には雨も止み、曇の一日でしたが、安全を期した今回の判断は間違っていないかと思っています。

今年の「親と子のふれあい登山教室」は、従来の2回に分けた実施を1回で集中して行う計画で進めてきました、第一・第二・第三自由ケ

丘幼稚園合わせて、親子で97組194名・先生8名・東海支部から25名の総勢227名参加の大きなイベントになる予定でした。1日でさばけるかどうかは心配でしたが、長年蓄積してきたノウハウで、なんとかできるのではないかといいことで計画を練ってきました。残念ながら、天候不良のために、今年度は見送ることとなりました。開催にあたりご協力を表明して下さっていた皆様には御礼申し上げます。

「伊吹山でブラインド登山」

今回で10回目、記念になる山行をということでいろいろと検討してきました。その結果、日本百名山で一等三角点の山である伊吹山に登ることとしました。



伊吹山山頂にて ブラインド登山のみなさん

「ブラインド登山」の前日の天気予報では降水確率50%でした。ザックに触れながら登山をする障害者の方々のこと、滑りやすくなっているだろう登山道を考え、「ふれあい登山」と同じく、雨が一番の検討内容でした。前々日から、ブラインド登山担当の加藤委員、山田委員と協議し、天気予報を詳細に検討し、「最悪15時頃からバラつくかもしれないが日中は大丈夫だろう」、「現地まで行ってどうしても場合は柔軟に対応する」ということで決行しました。登山終了後バスに乗り込む寸前から雨が降り出し、全員、大して濡れることもなく登山が出来ました。

今回は、視覚障害者の方8名・東海支部サポーター23名の計31名が参加しました。バスの都合で登り始めが遅くなること、日が短くなる秋の登山であること、ブラインドの方々を考慮した登山時間を考えると、一番下の「三ノ宮登山口」からの往復は難しいことが考えられ、ゴ-

ルを山頂一等三角点経由、伊吹山ドライブウェイとし、上りを主体で行いました。伊吹山は、1100m



三ノ宮登山口にて

の標高差があり、途中には高低差のある岩がある登山道を考えると、視覚障害者の方にとって決して易しい登山ではないのです。しかし、全員、多少の時間のバラつきはありましたが無事完登しました。頂上はガスが出てきて、かなり風も強く寒かったのですが、夏目副委員長が用意した甘酒で温まり、全員で記念写真を撮影し、一時を過ごしました。

「花の伊吹山」ですが、秋口で花は少なく登山道に彩りは無いのですが、その分、草木紅葉が楽しませてくれた思い出に残る第10回記念登山となりました。

ボランティア委員会行事は、高い山に登ることもなく、困難なルートに登る訳でもありません。登山としてみれば物足りなさがあるかもしれませんが、一般登山とは違う充実感があります。これも、山の登り方の一つに違いありません。支部員の皆様どなたでも歓迎いたします、是非一度、ボランティア委員会行事に参加して体験してみてください。

最後にいつも書きますが、ボランティア委員会行事は委員会メンバーだけでは成り立ちません、委員会以外のたくさんの方のボランティアで成り立っています。これからも、委員会行事にご理解を賜り、多くの方にご協力をいただけることをお願い申し上げます。



養老山から伊吹山を望む 『名古屋からの山なみ』より

第5回森の音楽祭2013を振り返って

森の音楽祭実行委員会 毛利邦男

音楽祭を迎えるにあたって、今年は今まで以上に広報活動に注力を払った。その甲斐もあり、一般参加希望者は400名近くに達した。

しかし、例年ではあまり考えられないような時期で、東海地方への台風直撃が危ぶまれる事態となり、2、3日前までは音楽祭そのものの開催を、ほぼ諦めざるを得ない状況となった。

ところが、我々の事前準備に神が味方してくれたのだろうか、前日の天気予報では天候が一変し、何とか開催できる状況に好転した。万が一に備え、演奏会場上部に天幕を張ることとし、当日を迎えた。



天幕の元での演奏

音楽祭当日の朝になっても雨は止まず、やきもきしたが、東海学園の生徒諸君の演奏が始まる頃には雨も止み、途中からは木漏れ日が射す、絶好の演奏会日和となった。聴衆の方々には静寂な森の中でのアルプホルンとオーケストラの演奏を存分に楽しんで頂けたと思う。



名古屋アルプホルンの会のみなさん

東海支部の村中氏率いる「名古屋アルプホルンの会」の皆さんによるアルプホルン演奏、続いて東海学園交響楽団によるドボルザーク作曲「交響曲第9番ホ短調作品95『新世界より』」の演奏を楽しんだ。その後、参加者全員で尾上昇前日本山岳会会長指導による「雪山讃歌」の合唱をした。こうして、音楽祭の第一部午前のプログラムを終了した。午後1時から第二部の森の観察会が11コースに分かれておこなわれ午後3時無事終了した。



森の観察会

音楽祭当日、早朝の雨のため参加を予定されていた方の55%程度の方が来場を断念され、参加人員については昨年を下回る結果であった。しかし、早朝の雨にも拘らず会場まで足を運んで頂いた方々には、素晴らしい生演奏での音楽と自然との触れ合いを存分に楽しんで頂いたものと信じている。音楽祭終了後、参加者から頂いたアンケートでは、ほぼ全員の方が「この音楽祭を存分に楽しんだ」「来年の開催も期待していますよ」などの励ましのお言葉を頂き、準備の苦勞が報われたと喜んでいる。また、音楽祭準備に当たり会場整備・準備に多大の労力を注いで頂いた猿投の森づくりの会の会員皆様のご協力に、この場を借りて御礼を申し上げます。



第2回支部友会ミーティング 朝明茶屋

支部友委員会副委員長 酒井 広

新年度に入り尾上 昇(前日本山岳会会長)氏を新しい委員長に迎え、前年度、低調だった支部友会活動の活性化策の一つとして「支部友ミーティング」を開催することとなった。その中の一つで目玉イベントとして『「朝明茶屋」において合宿を行おう!』との委員長号令の元で成功裏に実施できたのでここに報告する。

平成25年9月28日(土)～29日(日) 支部友会員12名・支部員(スタッフ)11名、計23名である。

28日(土)午後2時、金山駅附近に全員集合し、マイカーに分散乗車して、いざ朝明茶屋へ。到着後、今夜のお楽しみ、バーベキューパーティの準備に取り掛かる。全員で協力して火起こし・マキ割り、そしてバーベキュー会場・キャンプファイアー会場の準備をし、支部員等多数の方の陣中見舞いや肉・酒の差し入れやお手伝いをいただき、楽しくお酒と食事をいただいた。夜も更け、暗闇の中でキャンプファイアー会場へと移動する。松本スタッフの指導のもとで、尾上委員長が扮する山の神・火の神より支部友会員の全員へ松明に神聖なる火をいただき、全員でマキに点火する演出は、素人集団とは思えぬ見事なものであった。

グループごと順番に歌を歌い、お酒を飲み交わし一体感を感じるキャンプファイアーで楽しんだ。火を落とした後は、茶屋の中で薪ストーブを囲み延々と続く語り合い…。アルコールも入りつついっしょに大声となり秘密の話も2階の就寝部屋へ筒抜けになったとか。

29日(日)2日目はいよいよ集中登山。リーダーが中心となり各班4～5名にて①釈迦ヶ岳(酒井・左回り5名)、②釈迦ヶ岳(柴田・右回り5名)、③ハライド(尾上4名)・④ブナ清水(小川5名)・⑤ハト峰(伊藤4名)の各コースに分かれて分散登山を実施。時折、小雨が落ちる生憎の時間帯もあったが、自然の中で爽やかな空気を胸いっぱい吸い込みながら、6～7時間の山行行程をリタイアすることなく全員無事完登した。

お昼過ぎに朝明茶屋へ到着するなど健脚を發揮した早いグループもあったが、全パーティ集合時間の目標15時には全員下山した。

尾上委員長の「来年も朝明茶屋に集まり、支

部友ミーティングを継続しよう!」の言葉で2日間の支部友ミーティングも幕を閉じた。



朝明茶屋玄関前にて

開催を終えて

「新しい支部友会」としての第2回ミーティングをキャンプファイアーと山行で行い、親睦を深めることができた。全員参加対象の一泊山行に支部友会員の4分の1の参加があり、各人のキャンプファイアーでの誓いの言葉には感動した。山の楽しさ、仲間づくりにきっかけとなったミーティングであった。(スタッフ：伊藤)

私は、支部友会員は卒業して支部スタッフとして参加しました。久しぶりに支部友の仲間と一緒に、楽しい2日間となりました。これからもスタッフとして協力したいと思います。支部友会員の方も都合のつく限り会の行事に参加してください。会の活動を盛り上げてください。待っています。(スタッフ：川北)



中峠から釈迦ヶ岳を望む 『名古屋からの山なみ』より

支部友コーナー

支部友委員会では平成26年及び平成27年は次の山行計画を予定しております。

平成26年の山行計画

月	日	曜	山域	山名	リーダー
6月	7	土	中央アルプス	三ノ沢岳	伊藤
	14	土	北遠	熊伏山	酒井
	21	土	若狭	野坂岳	尾上
7月	12	土	東濃	富士見台	伊藤
	19	土	越前	杣山	酒井
	26	土	木曾	御岳山	尾上
27	日				
8月	22	金	八ヶ岳 (夏山)	天狗岳、 硫黄岳	酒井
	23	土			
	24	日			
8月	30	土	立山 (夏山)	立山	尾上
	31	日			
9月	13	土	木曾	南木曾岳	伊藤
	27	土	若狭	久須夜ヶ岳	酒井
	28	日	伊那	鬼面山	尾上
10月	12	日	飛騨高地	靱糠山	伊藤
	18	土	奥美濃	冠山	酒井
	26	日	奥美濃	小津権現山	尾上

11月	8	土	鈴鹿	雨乞岳	伊藤
	15	土	裏木曾	白草山	酒井
	29	土	奥三河	平山明神山	尾上
12月	6	土	東濃	笠置山	酒井
	13	土	湖南アルプス	堂山・太神山	伊藤
	20	土	奥三河	鞍掛山	尾上

平成27年の山行計画

1月	24	土	中濃	鳩吹山	酒井
	25	日	鈴鹿	藤原岳	伊藤
	31	土	南濃	笙ヶ岳	尾上
2月	7	土	遠州	尉ヶ峰	酒井
	14	土	鈴鹿	入道ヶ岳	伊藤
	21	土	鈴鹿	油日岳・三周岳	尾上
3月	14	土	江美	伊吹山	伊藤
	21	土	東三河	神石山	酒井
	29	日	遠州	猿見石山	尾上
4月	11	土	鈴鹿	御在所岳	伊藤
	18	土	中濃	納古山	酒井
	26	日	鈴鹿	御池岳	尾上
5月	1	金	若狭	三十三間山	酒井
	9	土	鈴鹿	鎌ヶ岳	伊藤
	30	土	鈴鹿	綿向山	尾上

山行ルール

山行対象者	支部友会員，支部友委員会スタッフ
申込み方法	・ 締切日 山行日 20 日前まで。 ・ 申込先 希望する山行のリーダーに申し込む。 (リーダーごとに指定している方法で)
申込みにあてて伝えること	山行日・山名・会員番号・氏名・住所・電話(携帯電話)・生年月日・血液型・加入山岳保険名
山行実施形態・留意点	冊子「JAC-TOKAI GUIDE 2013」 p48～p51「支部山行要領」と p52「マイカー使用要領」 に準じて行なう。雨天の場合、中止。

申込先及び申込方法

尾上 昇	①〒467-0044 名古屋市瑞穂区柏木町 1-24 ②FAX 052-832-3878 ③メールアドレス onoe@onoe.co.jp
酒井 広	①〒487-0006 春日井市石尾台 6-6-4 ②電話/ FAX 0568-92-6137
伊藤 康信	①〒454-0957 名古屋市市中川区かの里 1-2302 ②携帯電話 090-2577-8137 ③メールアドレス kobitokaba@mediacat.ne.jp

個人山行も J A C 東海登山届を！



専用携帯電話

080-2632-3776

同好会紹介コーナー

東海支部会員が有意義なクラブライフを享受するための組織として同好会が発足しています。同好会とは、東海支部会員が同好の士と東海支部の事業目的に沿った多様な活動を通じて有意義なクラブライフを享受しようとする集りで、総務委員長の所定の承認及び常務委員会への設立報告に基づいて登録された会をいいます。同好会は支部の会議室等の施設、設備、支部報及びホームページを利用することができます。東海支部会員なら入会は自由です。同好会規約及び設立の申込み方法は、本年度の支部ガイドに記載してあります。同好会が設立された場合は支部報等で告知します。

〈2013.10月承認された新同好会〉

名称：東海ASC

(Tokai Alpine Ski Club)

代表者：山田明美

副代表：西山秀夫

設立趣旨：スキーで山を歩き、登り、滑ることを素材にし、舞台にし、テーマとして安全に活動することを楽しむ集団です。

設立時会員数：8人

○古道塩の道同好会

山中光子

地道な古道歩きは、去る9月21日吉良で塩を作ったのち、古道を探る者にとって整備され過ぎた岡崎の町からやっと伊勢神峠を越すことができ、稲武の町に入りました。

この町では2年程前、郷土史を研究されている方と知り合い、歴史も学びました。おかげで塩を運んだ馬方達が宿で役人の目を逃れ遊んだ「博打部屋」も見学させてもらえました。そのお宅は由緒ある家系で、木地師特有の菊の紋付きの墓や人形浄瑠璃の頭があった家。(頭は現在、町で保管)家系図には〇〇太夫の名前もあります。

役行者像のある場所がずっと不明でしたのでお尋ねたら、「うちの山だ」と案内頂き、巨大な石の壁の中にある像を見ることができました。

この近辺は3本目の伊勢神トンネル着工コースになり、巨石も崩れてしまう



石壁の中の役行者像

でしょう。古道探しに伴い、地元の方々との交流が増え、お話しを聞く楽しさの反面、そのお話には、町の活性化に自然が崩れて行く寂しさも感じました。

古道塩の道を探索し、役行者の足跡を尋ね、大峯奥掛道や「低山を登る会(仮称)」のグループもでき、地図の勉強を楽しみながら、12月から山行と温泉をと楽しみが増えました。

mitsu.k@ae.auone-net.jp

○スケッチクラブの船出

村中征也

絵は登山の味を深め、境地を広げ、仲間を増やします…「絵は自信ないから」と思われている方も心配ご無用！

「仲間で教え合い、

お喋りも弁当もよし、

傾杯なお楽し」を

モットーに7月18名の仲間でスタートしました。



横蔵寺前で

◇7月 発足スケッチ行◇

中央線の愛岐廃トンネル跡地(定光寺ー古虎溪間)で行いました。ここは、今は使われなくなった4つのトンネルと軌道跡を NPOが整備して一般公開、アルプホルン演奏を通じての縁で選びました。

スケッチの後は、全員で絵を見せ合い、講評し合うのが会の流儀で、ユニークなトンネルの絵が飛び出して歓声。木曾の濁り酒と山の歌で、暑さを吹き飛ばしました。

◇11月 「揖斐川上流の紅葉を訪ねて」◇

ミイラで有名な横蔵寺と、谷汲山華厳寺を訪れました。急激な冷え込みで見事な紅葉、「描

く時間が少な過ぎたかな」と心配になる程、散策と秋の味覚とお喋りを満喫しました。

◇今後の予定◇

2月は近江長岡「雪の伊吹山」

5月は「安曇野の残雪を求めて」

6月は全員出品の「ミニ展覧会」

を予定しております。

会費ゼロの気楽なサークルです。素人だからこそ、意外性があり、楽しめます。何時でも門戸開放しておりますので、声を掛けて下さい。

事務局…村中征也・加藤和子・武内喜代子
代 表…杉田 博

第 28 回名古屋大学博物館企画展

「氷壁」を越えて・ナイロンザイル事件と

石岡繁雄の生涯—開催中

西山秀夫

11月6日。名大に博物館があるとは知らなかった。豊田講堂の隣の目立たない建物に入る。順路に沿って見学すると石岡さんの生涯が理解できる。

鋭角の岩に当てると簡単に切断することも知らずに利用していた。事件の真相を分析し、ナイロンの性格に問題ありと、公表すると登山技術の未熟を批判される。身内の不幸に加えて誹謗中傷にも負けず、真実を明らかにしてゆくのは学者というより、実の弟を亡くしたザイル切断事故の再発を防止したいとの願いであった。

この企画展の経緯は、石岡あづみさんのHPによると、「2006. 8. 15 父、石岡繁雄が永眠してから7年が経過し、2012年12月27日をもって足掛け5年間、「石岡繁雄の志を伝える会」の皆様方と取り組んで参りました父の残した資料などの整理作業が終了し、それらの多くを名古屋大学に移管致しました名古屋大学大学文書資料室と発明品や遺品などを寄贈致しました名古屋大学博物館が合同で「『氷壁』を越えて～ナイロンザイル事件と石岡繁雄の生涯」と言うタイトルで個人展が開かれることになった」という。

〈石原國利さんの講演を聞く〉

2013年11月22日（金）13：30～

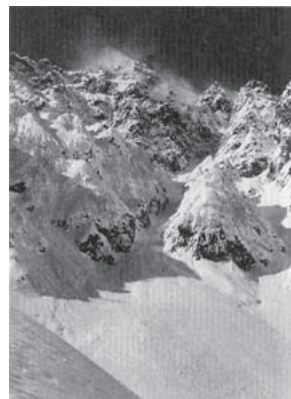
「ナイロンザイル事件発生のいきさつ」

石原 國利（ナイロンザイル事件当時の登山パーティーのリーダー）

今日はナイロンザイル事件の当事者たる石原國利氏の講演があるというので名大博物館へ再訪となった。石岡あづみさんもおられたのでごあいさつさせてもらった。岩稜会関係者、鈴鹿高専OB、三重岳連関係者の顔も見えた。もちろんJAC東海支部関係者も多数見えたが、一般の登山に関係ない人も新聞報道で興味

をもたれた人が来られた。

13時30分きっかりに石原さんが入場されて、講演が始まった。広めの会議室だが入りきらずに溢れて、マイクだけを通して室外の人にも聞こえるようにした。本や記事では読んでいたが、岩壁のスライド、捜



奥又白本谷からの前穂東壁

索時の写真、故今西錦司からののはがき・関係文書を映して、リアルに説明されると「前穂東壁」の凄さが伝わる。前穂頂上直下のほぼ垂直の壁である。そこをナイロンザイルで確保しながら登攀中に起きた切断事故であった。

当時のザイルの太さは8ミリというから細い。私が沢登り用に持っているザイルが8ミリである。それで懸垂下降もやっているがちょっと細い気がする。また当時のザイルの展示物(実物)を見ると編みザイルではなく撚りザイルで、撚りも荒いように見える。細かい傷も付きやすいので最新の注意が必要であるように思う。

とにかく、ザイルの切断によって運命の人になった石原國利さんの生の声を聞いて感銘を受けた。

企画展は2014年1月30日まで開催中。

10：00～16：00（入館は15：30まで）

閉館日/日曜・月曜および12月28日～1月6日

名古屋大学博物館 3階企画展示室

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学博物館事務室

TEL：052-789-5767 / FAX：052-789-5896

支部友会の楽しかった 10年間の思い出(1)

第2代支部友会委員会 長坂 博

晩秋の日を浴びて、地元の低山で仲間と過ごす一時は至福の時間です。その時、去来する思い出は年老いた者の特権です。若き日の雪山の記憶は遠く、支部友会の仲間と過ごした10年間の思い出は鮮明です。

平成3年、朝日カルチャーセンター、愛知県労働協会から登山教室の要請があり。尾上現常任評議員(以下尾上さん)を校長として開講しました。その際、卒業生からの要望に応じて、受け皿として初心者・初級者を対象として「支部友会」が設立されました。

設立に際しては、支部内からの異論も出ましたが、社会貢献として、湯浅支部長、尾上さん、中世古隆司さんの意志は固く、支部の下部組織として誕生しました。登山教室の受講者のほぼ60%が入会しました。

20余年の時は流れ、支部規約も支部友組織も変わっていくのは止むを得ないと思いつつも、私が受け持った10年間は、よく言えばのびやかな時代でした。

しかし、「命と弁当は自分持ち」を信念として、山岳傷害保険への全員加盟など、武田 康さん、内藤芳夫さんの努力もあり、支部友山行にのべ1000名近く参加した会員中、一人の事故者すら出さなかったことを、誇りに思っています。

私が実践した、地元の奥三河での山行は、名古屋などから遠いこともあり、一泊二日の計画がかなりありました。その時の支部長、副支部長は時間をやりくりして殆ど参加してくれました。

深い山間に点在する集落は、長い間孤立していたこともあり、それゆえ、貴重な山村民俗の宝庫でもあります。したがって、それらと組み合わせる山行は今でも印象に残っていると、当時の参加者からは言われています。

国指定重要無形民俗文化財に指定されている「花祭」は初冬から各地で始まります。厳しい山村生活の五穀豊穰を祈り、夜を徹して行われる祭りは、赤鬼の登場あたりから、集落の老若男女ばかりでなく、我々も一体となって「テ

ーホエ、テホエ」の掛け声の合唱が谷あいには響きます。神事は集落ごとに微妙に異なっているのも、谷間に散在していた集落の民俗の違いでしょうか。

毎年参加している研究者や、遠くインドネシアのメディアの収録などもありました。早朝近く、寒さに凍えながら旅館や民宿へ戻る時の満足感も忘れられません。

当時、東海支部員であった山田 猛先生の、棚山高原の「棚っ子小屋」を拠点に、四季おりの山行も、強く印象に残っています。

棚山高原は、鳳来寺旧火山帯に属し、鳳来寺山の北に位置しています。火口跡と言われる窪地も存在しています。平均高度700mの高原で、南側、西側には切り立つ岩壁があります。

小屋の前を流れる清流で「薪割り、飯炊き、小屋掃除」。そのままに、山田 猛先生の後を追って摘んだ山菜の天ぷらと、恒例の尾上さん差し入れのワインを飲みながら、小屋の近くの小池で天然記念物のモリアオガエルの産卵を見つたり、林道沿いの沢でのオパール探しにと、四方山話は尽きませんでした。

いろいろな山行の中で、個人的には、増田千恵子さんが計画した、「春の白馬山麓のスノーシューハイキング」は楽しい思い出です。何しろ、長い間ワカン党でいたのでとても新鮮な感覚でした。

ただ登山のみに終わらず、その土地の歴史、伝承に自然観察など加えたことで、より楽しい登山を味わえたことは、記憶に残る思い出です。



「布川の花まつり」

委員会報告

【山行委員会】

山行委員会では、今年からインターネットを利用して支部員・支部友会員向けの山行を行っています。後期の実施状況がまとまりましたので報告します。

山行委員長 柴田清康
第一山行グループ 石田文男

25年度後期(25/10～26/3)の山行実施状況・山行計画

H25. 12. 10時点

山行日	山名	リーダー (敬称略)	申込人数 /定員	山行 実施	備考
10月 (3山)	10/5 木曾山脈 恵那山	小川 務	14/16	○	雨天中止
	10/4～6 中央アルプス	市川義行	5/15	○	
	10/26 奥越 銀杏峰	吉田俊紀	12/15	×	
11月 (3山)	11/9 室生山群 兜岳・鎧岳	石井 仁	16/18	○	
	11/17 木曾 南木曾岳	田中國興	6/10	○	
	11/23～24 台高 大杉谷・日出ヶ岳	市川義行	21/15		
12月 (4山)	11/29～ 12/9 ニューゼaland トレッキング	星 一男	3/5	○	締切日時点で申込みなし
	12/1～2 南アルプス 小河内岳	大島 忍	0/5	×	
	12/7 鈴鹿 三池岳・釈迦ヶ岳	伊藤純一	12/15	○	
	12/21 湖南 十二坊	伊藤祐幸	8/20		
1月 (1山)	1/18 南勢 七洞岳・獅子ヶ岳	鈴木慎吾	/20		HP掲載： 山行日の60日前
2月 (2山)	2/8～9 鈴鹿 御池岳	野呂邦彦	/15		
	2/15 奥越 野々小屋山	石田文男	/20		
3月 (3山)	3/1 奥美濃 湧谷山	伊藤祐幸			
	3/29 奥三河 袖山&八嶽山 3/30 田原アルプス 衣笠山・滝頭山	石井 仁 田中國興	/10		
4月	4/5～6 石徹白・芦倉山	石田文男			

【自然保護委員会】

〈第17回森の勉強会〉に参加

公益社団法人日本山岳会の東海支部、関西支部及び京都支部の3支部共催で開催されているこの「森の勉強会」は、本年度は第17回になり関西支部主管により「六甲の森と草原」の副題のもと、平成25年10月5日(土)～6日(日)に兵庫県で開催された。

参加者は関西支部8名・京滋支部2名・東海支部2名・首都圏1名の合計13名であった。

◇第1日目(10月5日)12:30～

初日は座学三講座で、兵庫県三田市の兵庫県立「人と自然の博物館」で開催された。三田市は大阪からJR福知山線(宝塚線)で約1時間のところにある「ニュータウン都市」と云った感



六甲山頂での集合写真

じの町である。その新市街地の一角に、この博物館はある。

座学Ⅰは、「日本の植生」と題し、神戸大学名誉教授(学術博士)武田義明先生のパワーポイントを使った講義で、①日本の潜在自然植生の水平分布と垂直分布の違い②気候帯の代表的な自然植生③代償植生(里山)の管理放棄による生物多様性の問題点等にふれ、森林ボランティア活動の意義について語られた。

座学Ⅱは、「東お多福山草原復元活動(生物多様性とその保全)」と題し、この兵庫県立「人と自然の博物館」の主任研究員(学術博士)橋本佳延先生の「生物多様性の意味—草原の意義—お多福山の草原復元活動」等について、資料を交えての講義と実証活動報告であった。

「東お多福山」とは、六甲山系の一角にある標高697mの小山で、昔は萱葺き屋根の材料や田畑の肥料・家畜の飼料等として定期的に刈られていたため、ススキを主体とした草原であった。

ところが、1950年頃からこのような利用がされなくなったことから、ネザサが生い茂る藪山になってしまった。

そのため、もう一度ススキや四季折々変化に富んだ多様な草花が見られる草原に戻すべく、「東お多福山草原保全・再生研究会」が結成された。定期的にネザサ刈り払い等の作業が実施されているとのことであった。

座学Ⅲは、「ブナを植えて30余年」と題し、「ブナを植える会」会長の桑田結氏のブナの植栽活動のあらましと、成長記録の報告であった。

この「ブナを植える会」は、かつて但馬・奥播磨地方の山岳地域の何処でも見られたブナ林を復活させようと、昭和55年に会を立ち上げられた。これまでに各地域の協力のもとに11,000本余のブナの植栽を達成したとのことであった。(この功績により平成20年「緑綬褒章」を受章されている)

座学終了後、関西支部員のマイカーに便乗し「プリンセス有馬」に移動(懇親会・宿泊)。

◇第2日目(10月6日)

2日目はフィールドスタディで、最初に六甲山ドライブウェイ沿いの「旧極楽茶屋跡」のブナ植栽地(1998年)を「ブナを植える会」の桑田会長の案内のもとに見学した。山頂付近で風が強いにも拘わらず、樹高は数メートル近くに達し、立派に成育していることに感心した。(写真1参照)

次いで、ドライブウェイ反対側の「紅葉谷」



写真1 六甲山頂付近の15年生ブナ林での桑田会長の説明

へと下り、ブナの自生地を橋本主任研究員の案内のもとに見学した。六甲山は緯度的には名古屋と同程度で、この付近の標高は700~800mの北斜面であるが、胸高

直径30~50cmに及ぶブナの大木が随所に自生していることは大きな驚きだった。

次いで、六甲山頂に移動し、最近のブナ植栽地を見学すると共に、ここで昼食を取りながら山頂からの大阪湾や阪神の市街地の鳥瞰を満喫した。

昼食後、ドライブウェイを少し下がった「東お多福山」へ移動した。ここは芦屋から六甲山への登山道沿いの棚状の緩やかな尾根である。「昔は、秋になると大阪湾を眼下に一面銀色のススキの穂が、風に揺られてそよぐ様は・・・」と云われると、その情景を容易に想像することができる。しかし、現状は、天然アカマツと一部ヒノキ人工林以外は、ネザサが生い茂る藪山で立ち入ることも出来ない状況であった。

その登山道の沿線に「東お多福山草原保全・再生研究会」が、取り組んでいる活動現場が広がっていた。そこでは、毎年ササ刈りが行われているため、ササは矮小化し、その間から「ススキの穂」が頭を出していた。「リンドウ」や「センブリ」「アキノキリンソウ」などの花も散見され、ササ刈りの効果は十分理解できるものであった。(写真2参照)

随所には、テープが張られた調査区が設定されており、毎年出現してくる植生の変化を追跡し、調査記録



写真2 ネザサが刈り取られ草原に戻りつつある「東お多福山」での橋本主任研究員の説明

をしているとのことであった。

人間よって（人間が利用しないことによつて）変化した自然生態の復元に、真摯に取り組んでおられる状況やその現場を見聞することができ、有意義な勉強会であった。

二日間お世話になった関西支部の皆様へ厚くお礼申しあげ、ここに報告をする。

自然保護委員 川合鋸一

【東海学生山岳連盟】



今年で活動5年目を迎える東海学生山岳連盟”東学連”は、支部ルームをお借りし、毎月定例会を行っています。定例会では、各大学の山行報告に始まり、山行予定や各種イベントのメンバー募集の場にしております。11月の定例会では、各大学の次期委員候補として将来有望な一年生が揃い、次代へ向けた引き継ぎが行われました。山行報告会では大学によって全く色が異なり、アルパインが中心の大学や、ひたすら縦走に取り組む大学、さらにはバスを一台借りるような大学もあります。それぞれの実力や目標は違っても“山に登りたい”という気持ちを第一とするとところに東学連の合言葉があり、定例会では新しい発見が尽きません。

先月の一年を締めくくる総会では、合計10大学から約40人の学生が集まり、中には大学伝いに東学連の存在を知り、県外から来てくれた大学もありました。開会にあたり、小川支部長からこれまでの東海支部のあゆみと、これからの東学連が目標とする山登りの在り方についてお話をいただきました。東学連役員からは今年、2人が卒業となります。前委員長から“新”東学連へバトンタッチとして以下の言葉を貰いました。

『～総会を終えて～

今回の総会の僕の役割（最後の仕事）は、第5期の東学連委員達に学生連盟を引き継いでもらうこと。新委員長をはじめ、



新幹部の皆さんに無事に引き渡すことができ、大役を終えることができた。僕自身、大学で山を始めたきっかけが東学連であり、ずっと今までで育ててもらってきた。学生の中だけではなく、社会人の方とのつながりもでき、多くの山々に連れて行ってもらった。最近になってやっと「後輩を連れて行く」という立場にもなってきた。「連れて行ってもらおう山行」と「連れて行く山行」それぞれ身に着くスキルが、全く違うということに気付いた。

学生連盟は世代の移り変わりが早い。大学生生活を終え抜けていく人と新しく入ってくる人。1年ごと、新しい顔ぶれがそろそろ。これも学生連盟を運営していく上で、難しいことの一つであると感じる。これからの第5期の委員には今まで以上に学生連盟を盛り上げていってくれるよう、願っている。』（前委員長 堀内晃）

今後は歴代の東学連の委員長が理事として見守ってくれます。これから東学連を動かしていく“新”幹部は、名古屋外国語大学、名工大、三重大、岐阜大、南山大の2、3年生5名。委員長を務める外語大ワングルの私、鎌倉の抱負は、「岩と雪の世界の仲間を増やしていくこと」です。これまで名古屋市近隣の大学のみが、中心となって参加していたため、メンバーに偏りができていました。そこで、定例会等の会場を移すことで偏りを解消し、加盟大学を増やしていきたいです。ワングル出身の私が、東学連無しには絶対に巡り合えなかったであろう「海外の山」の魅力をも多くの仲間と分かちあえるよう、仲間と共に輪を広げていこうと思います。

大学間の交流活性化をねらい、具体的に取り組んでいる事は、合同のトレーニングです。

各大学の日頃のトレーニングに加え、合同でアルパインのためのトレーニングや勉強会を開いています。テント生活の練習からセルフレスキューまで平地で準備できることを考え、実行し、新人から上級生の一人一人の行動範囲を広げられるトレーニングを目指しています。

海外遠征という大きな目標に向かい、これからもオリジナリティと話題性あふれる東海学生山岳連盟として、仲間達と存在感を示していきます。

東海学生山岳連盟 鎌倉源助

【総務委員会】

全国支部懇談会報告 10月20~21日静岡支部
〈富士山にて〉

平成25年の第29回支部懇談会は静岡支部の主管で、10月20・21日に全国から190余名が集まり、静岡市の「ホテルアソシア静岡」で行われた。静岡支部は、1950年設立の伝統ある支部であり、大島支部長の決断のもと、多くの支部員の協力を得て、開催された。また富士山が世界遺産に登録された直後であり、関係者の意気込みが強く感じられた。隣接支部でもある「東海支部」からは、尾上前会長以下15名参加で31支部の中で最も多い人数であった。

10/20支部懇親会の行事は午後3時から地元静岡市・田邊市長の歓迎の挨拶で始まった。静岡県担当からの富士山の世界遺産登録の経緯の紹介や古参会員からの静岡支部の歴史などの紹介の後、「富士山におけるスラッシュ雪崩と大量遭難事故」と題する安間荘会員の講演が行われた。その中で「スラッシュ雪崩」とは水分を多く含んだ雪による雪崩で大きな被害を及ぼす可能性があるとのこと。過去65年間で国内で発生した7人以上の山岳遭難死亡事故のうち、5件が富士山で起きているとのことであった。原因は雪崩だけでなく、暴風雪に加え、スラッシュ化した積雪が短時間のうちに行動の自由を奪い、低体温症による死亡事故も特徴的であるとの説明であった。

れた懇親会は、静岡支部の大島支部長からの歓迎の挨拶に始まった。その中で支部長自身の記録として、2002年から津軽半島の「竜飛岬」から「中央分水嶺踏破」を開始し、最近、総踏破距離は777kmに達し「那須連峰」が見えるところまで到達しているとのこと。全国の分水嶺の踏破は自分だけかと思っていたところ、2年後に日本山岳会の分水嶺踏破が始まり、やや気落ちしたとのエピソードの紹介があった。

続いて、森会長から支部懇談会を開催されたことへの謝辞と、最近の山岳会を取り巻く情勢について以下の二点の報告があった。

一点目は会員増強についてのお願いであり、二点目は寄付に関し、国へ申請していた税額控除の特例が、つい先日認められ、内閣総理大臣から証明書が届いたとの紹介があった。その後、尾上前会長の音頭で乾杯が始まったが、そのあいさつの中で、森会長挨拶の寄付に関連して、「皆さんの遺産の一部を是非、山岳会に寄贈するために遺言を残して欲しいし、自分自身も既に遺言書を作成している。ただし、それが実現するのは20年以上先になるはずである」との挨拶で、会場がドッと沸いた。その様なところで乾杯となり、懇親会が始まった。

10/21懇親会記念山行は素晴らしい眺望に恵まれ3コースに分かれて行われた。そのうちのひとつ宝永山コースは、富士宮口5合目駐車場から宝永火口までほぼ水平な道をたどり、以降は御殿場口新5合目まで下るというルートで、雄大な富士の裾野を満喫できる山行であった。

来年は同時期に埼玉支部主管で行なわれるとのことであり東海支部からも多数参加できる企画をしたいと思う。 佐野忠則 記

東海支部俳壇

西山秀夫

伊那山脈・鬼面山に登る

鬼面山櫓に立てば天高し

天高し屏風のごとき木曾の山

恵那山のドームのごとし秋麗

妻恋の鹿啼く声のあはれなり

朝寒や峠地蔵に一札す

羽毛シラフ被る身に入む山の夜

秋雲のまとわりつきし奥茶臼

断層の恐さも知らず秋の川

(青木川・安康露頭)

人を見ぬ大鹿村や秋桜

山と川のほか何もなし花すすき

(大鹿村)



会 務 報 告

【2013年9月常務委員会】

日時：9月25日（水）19時00分～21時00分

1. 小川支部長挨拶

H25年度の前半を振り返っての感想－異常気象が続き、暑い夏もやっと終わり、10月からH25年度後半の各種行事が待ち受けているので、皆さん頑張ってください。

2. インドヒマラヤ登山計画について－鈴木（常）評議委員より、第12次インドヒマラヤ登山計画が配布され、内容につき説明と同時に、10月発行の支部報に当登山計画の募集要領を入れることにつき常任委員会の承認を得たい旨発言あり、承認された。

当計画は、東海支部が過去行ってきた中高年によるインドヒマラヤ未踏峰制覇の活動の芽を絶やさないうえ、未踏峰ではないが、第13次インドヒマラヤ登山隊派遣につなぐため、企画した旨説明あり。

3. 登山届について（柴田）－今年7月の常務委員会にて「家族・友人との登山ならびに、単独山行の場合」警察ないしは登山口での届出と共に、東海支部に対する登山届も必要とすると決定された。これを踏まえ、東海支部への登山届の実効性を確保するため、受信専用の携帯電話（080-2632-3776）を設置した旨報告。野呂遭難対策委員長に当留守番電話の管理を依頼。支部報No.135にて、この決定の経緯、届け出の方法、注意点など詳しく案内することとした旨報告。

4. 委員会報告

①会計（市川）－会費未納者が未だ70名いるので、No.135支部報に該当者には督促状を入れる旨報告あり。

②支部友委員会（酒井）

◆9月7日支部友委員3人が下見登山で下山が遅れ、遭難騒ぎを起こしたことを陳謝。

◆8月9日支部友集会在が32名の参加を得て開催された。尾上委員長から新体制下の活動指針についての説明があり。皆さん感銘を受けたとの報告。

◆9月28日・29日－9/28朝明茶屋にてバーベキューとキャンプファイアー。9/28 5つのコースにわかれ、集中登山（釈迦ヶ岳、三国岳など）を計画しているとのこと。参加者数23名を予定。

◆12月11日（水）午後7時から、手作り忘年

会を支部ルームにて開催予定。

◆支部報にて支部友月例山行計画（毎月3つ位の山行）を紹介する予定。10月発行支部報では、11月、12月、1月分を掲載。

③山行委員会（柴田）

◆亀の会－8月末時点で会員数53名（サポーター16名＋一般37名）である。

8月22日南木曾の兀岳－13名参加（石田引率）9月26日岐阜金華山の裏にある鷹巣山、権現山を予定。

◆第1山行グループ（石田）－リーダー会議を9月23日に開催、12名が参加。10月～3月の山行の確認及び追加山行の依頼。

ホームページを使つての山行案内・募集、実施状況－17の山行を計画したが、実施できたのは8山行のみにとどまった。参加申込者が少数のため催行できなかった山行多数あり。

過去3ヶ月のログイン数は101名。うち81名の支部員がログイン、また22名のリーダーの内12名はホームページを見ている状況とのこと。新しい支部員の多くはホームページにアクセスしていることを考えれば、山行申し込みが減少したのは、ハガキからホームページに移行したためとは断定できない状況なので、来年3月までは、このままホームページのみでの山行案内及び参加申込受付を継続する予定との報告。（ホームページ利用の山行運用により山行計画提出が6ヶ月前から2ヶ月になったのでリーダーにとっては計画が立てやすい反面、山行計画を見る側からすると紙ベースの方が便利という側面がある）

④猿投の森づくりの会（和田）－一定例作業、イベント、今後の予定につき配布された報告書に基づき説明。

⑤東海 youth（山田）－下記の通り、会員数並びに活動報告あり

会員数：23名（内1名男性）山行－企画段階から、女性会員が主体となり、毎月2～3山登っている。

8月は2パーティーがテント泊、1パーティーは小屋泊りの山行を実施。23人の内、現在の所3人が支部員として活動。青年部に入るよう勧めているところ。

⑥支部報編集委員会（星）－9月27日に支部報No.135発送予定である旨報告。

⑦青年部（高橋）

◆ 9月19日～23日に実施されたYouth Club主催の剣沢での「安全登山実技講習会」に参加。非常に有意義な講習会であった。東海支部の参加者の実力を他の支部の参加者に認めて頂いたと満足しているとのこと。東京青年部とは今後交流を深めていくことで合意したとのこと。

◆ ゴザフェス(9月28～29日)配布された資料に基づき内容説明。

◆ 山行報告・計画-配布された資料に基づき報告。

◆ 備品購入-ザイル2本・カム1セット・テント購入を予定。Youth Clubからの助成金で費用は賄えそうである旨報告あり。

⑧登山教室(山田)-4教室とも順調ではあるが、山ガール講座については少々問題ありとの報告。異常気象の影響もあり、山行日延期などによりこのところ山行への参加者が減少傾向にあり、参加者3人と言うケースもある。

山行が東海支部からの資金持ち出しで実施されている状況が続いている。参加者10人を切った場合は山行中止という取り決めを主催者としたところである。3月までの山行実施状況をみて4月以降の対応を考える予定とのこと。

⑨自然保護委員会(南川)-配布された資料に基づき、活動報告並びに今後の活動予定につき説明。

⑩図書員会(石田)-日本山岳会発行の「山岳108号」につき素晴らしい内容である旨、コメントあり。

⑪ボランティア委員会(前田)-10月19日予定している親子のふれあい登山にむけ準備中である旨、報告。

⑫遭難対策委員会(野呂)-支部友委員会のメンバーによる過日の下山遅れによる遭難騒ぎは、まさしく、これは遭難事故とのコメントあり。

⑬写真展実行委員会(井上・箕浦)-9月3日委員会開催し、第14回東海岳人写真展の募集骨子決定-募集数65点(1人2点まで)、平成26年3月25日～30日名古屋市中区市民ギャラリー。詳細は、支部報同封のチラシ参照。今回も皇太子殿下の写真を展示できるよう準備中とのこと。

写真山行-10月4日～8日仙人池を予定、参加者4人。

⑭第5回森の音楽祭2013(毛利)-準備状況、参加申込者状況につき報告。

⑮総務委員会(佐野)-

1) 静岡支部主催全国支部懇談会参加申し込み者数-東海支部から17名参加予定とのこと。

2) 年次晩餐会-12月7日開催予定であるので東海支部から出来るだけ多くの人が参加するよう要請。

3) 東海支部新年会-平成1月11日開催予定である旨報告

4) 同好会-新たに「東海ASC(Tokai Alpine Ski Club)設立の届け出があった旨報告。(代表者:山田明美、副代表:西山秀夫)

出席者:尾上、中世古、野呂、箕浦、和田、柴田、鈴木(常)、佐野、市川、星、高橋、南川、石田、前田、井上、酒井

【2013年10月常務委員会】

日時:10月23日(水)19時00分～21時00分

1. 小川支部長挨拶

台風が接近しているが、森の音楽祭は予定通り10月26日に開催予定である旨報告、当音楽祭の開催そのものについては総会で報告・承認をうけているが、開催費用の予算化がされていないので、当常任委員会にて予算の承認を頂きたい旨発言があった。

2. 今後の予定と組織の件について佐野総務委員長より下記報告・提案があった。

①12月7日年次晩餐会-東海支部から出来るだけ沢山の人に参加して頂きたい旨要請。本年新たに支部員になった方には、別途案内と参加要請をする予定である旨報告あり。

②1月11日支部新年会-11月中旬に開催案内及び出欠の返事を求めるハガキを発送予定であること、新人対象のオリエンテーションを開く予定である旨報告あり。

③日本山岳会の110周年記念事業に連動した記念事業を、東海支部でも計画する必要があるため、事業企画委員会の中に110周年記念事業準備小委員会を設置すること。及び総務委員会主導で事務局を設け、当面は50周年記念事業担当メンバーで検討委員会を立ち上げ、2～3ヶ月以内に詳細を決定したい旨提案があり、常務委員会で承認された。

3. 委員会報告

①会計(市川)-登山教室参加者減少に伴い、運転資金がひっ迫しているため、運転資金として20万円を登山教室委員会に振込をした旨報告あり。

②岳連(星)ー配布された資料の通り来る 11 月 29 日、『救える命を救いたい』と題して大城和恵氏の講演が、愛知県県スポーツ会館にて開催される旨紹介。又、ボルダリング大会にて愛知県が優勝した旨報告。

③支部友委員会(尾上)ー

◆9 月 28・29 日ー支部友ミーティングを朝明で行った、参加者 23 名。毎年同時期に朝明ミーティングを開催する予定である旨報告。

◆山行ー11 月から月 3 回のペースにて開催する予定である旨報告。

◆12 月 19 日(木)午後 7 時から、手作り忘年会を支部ルームにて開催予定、支部の方の参加もお待ちしている。

◆支部友集会ー隔月で開催する予定である旨報告あり。

④第 2 回夏山フェスタ(尾上)ー

配布された資料の通り第 2 回夏山フェスタを平成 26 年 6 月 7 日～8 日ウインクあいちにて開催予定である旨報告。同時に東海支部の協力をお願いしたい旨依頼ー承認。

⑤山行委員会(柴田)ー

◆亀の会ー10 月支部報にて発表された東海支部の会員に対する登山届提出の義務化は、規制との意見が亀の会の中にあること及び、亀の会を同好会の扱いにしてほしいとの意見があることを議事録に記載して欲しいと要請があった旨報告あったーこれに対して複数の常務委員から、亀の会からの要請の真意がよく判らないなど、亀の会の考え方に疑問が提起された。山行ー9 月 26 日：鷹巣山、洞山・権現山 参加者 22 名 10 月 24 日：坊ヶ峰、富士見岩を予定ー雨天の為中止

◆第 1 山行グループー9 月 24 日開催の山行委員会リーダー会議の議事録配布

⑥猿投の森づくりの会(和田)ー一定例作業などにつき配布された書面にて報告。

⑦東海 youth(山田)ー山行ー月に 4 回のペースで催行、順調に活動している旨報告。

登山届ー支部への届け出は支部員以外もあり、所定の届出電話ではなく‘サークルスクエアー’(グループ運営のための無料クラウドサービス)への届けにて代行させている旨報告。

⑧支部報編集委員会(星)ー配布された資料に基づき、支部報 No. 136 の原稿依頼内容の報告あり。今回は‘遭難事故多発に関する緊急アピール’を掲載する予定であるとのこと。

⑨青年部(高橋)ー

◆ 配布された 10 月 3 日開催の定例会議事録を基に補足説明。

※ 鈴木常夫氏より募集されたインドヒマラヤ海外遠征に、青年部からも参加する方向で検討中とのこと。

※ 購入予定の備品購入にあたり、本部に 20 万円の助成金を申請したとのこと。

※ 本部 YOUTH CLUB 主催にて来年 1 月 25～26 日開催予定の「冬山・雪崩対策講習会」に東海支部青年部から数名参加予定である旨報告。

◆名古屋アウトドアフェスティバルへのブース出店依頼があるので、参加したのかどうか検討中である旨報告あり。

⑩登山教室(天野)ー10 月からは 4 教室とも順調である旨報告あり。

⑪自然保護委員会(佐野)ー南川氏欠席の為、佐野総務委員長が代わりに配布された 10 月度委員会議事録を基に、活動の概要を説明。

⑫ボランティア委員会(前田)ー10 月 19 日予定していた親と子のふれあい登山は、268 名の参加を得て開催予定であったが、残念ながら悪天候の予報の為中止とした旨報告。11 月 3 日のブライント登山は、11 名+サポーター 22 名、計 23 名にて開催予定との報告。又、12 月 17 日は忘年会を予定しているので、常務委員会の人も参加して欲しい旨依頼あり。

⑬遭難対策委員会(野呂)

救助隊の名簿に青年部も出してほしいー了承。携帯電話の管理ー山田副支部長にもお願いしたい。了承。登山届の管理方法ーFormat の作成をお願いしたいー柴田作成とする。

⑭写真展実行委員会(井上)ー10 月 7 日委員会開催し、写真展のパネル作成方法につき検討、3 社に見積り依頼を出すこととした。予定していた 10 月 4 日～8 日の「仙人池写真山行」は悪天候予想の為、中止とした旨報告。11 月 15 日から写真展出展募集の受付を開始するので、沢山の方の応募を御願いたいとのこと。

⑮第 5 回森の音楽祭 2013

毛利ー準備状況、参加申込者状況につき報告。小川ー音楽祭開催概算費用は 75 万円である旨報告。当 75 万円の費用のうち 40 万は猿投の森づくりの会が負担、20 万円は寄付金、残りの 15 万円は支部の方から支出したいので承認して頂きたい旨提議ー承認。

出席者：尾上、中世古、野呂、和田、柴田、山田、佐野、市川、星、天野、高橋、前田、井上

【2013年11月常務委員会】

日時：11月27日（水）19時00分～21時00分

1. 小川支部長挨拶

大型台風が続いた後、いきなり寒風が吹き始める季節となったが、冬山登山に際しては万全の対策を取って事故防止に努めて欲しい。

12月開催予定の支部長会議では、若年層対象の技術研修を定期的に開催すること、および、海外登山への本部からの助成を求める予定である旨紹介。

2. 新年会 — 佐野総務委員長より、兼森広島支部長を講師に迎え当支部のユニークな活動内容について講演をして頂くことにしたこと、今回も新人対象のオリエンテーションを行うこと並びに案内状は1両日中に発送する旨報告あり。

3. 委員会報告

①会計（市川）：会費未納者からの会費納入を逐次受け入れている旨報告。

②支部友委員会（酒井）：配布された資料に基づき、山行報告、並びにH26年度の年間山行計画、支部友ミーティング計画などを説明。また12月11日に手作り忘年会を開催するので常務委員の皆さんの参加もお待ちしているとのこと。

③山行委員会（柴田）

◆亀の会—東海支部の遭難に対する対応及び登山届の必要性につき亀の会代表加藤守彦氏と意見交換し、意思の疎通を図った旨報告。

◆携帯電話による登山届の現状につき報告—11月は17件の報告があった由。

◆徳本峠越えとウエスタン祭への参加募集について—例年開催している本部山研主催の“徳本峠越えとウエスタン祭”への参加募集を今年は第1山行グループが行ったが、来年は集会企画小委員会で行うことにしたいので承認願いたい。—承認。

④緊急アピール合同集会（尾上）—低・中級山岳での遭難事故が多発していることを踏まえ、下記の方を講師に招き来年2月13日ルームにて、“緊急アピール”と題し、遭難の実例を主体に講演をお願いすることとした。

- 1) 居村年男 三重県岳連遭難対策委員長
- 2) 野呂邦男 東海支部遭難対策委員長
- 3) 小古真也 三重県警察教官

⑤猿投の森づくりの会（和田）—配布された資料に基づき、10月～11月の活動内容及び今

後の予定について報告。作業小屋は年内に撤去し、道具置き場として民家納屋を借用予定。新規：①活動エリに東大演習林も加えること決定、②なごや環境大学共育講座に講座を持ち環境教育を実施すると同時に、会員増強に努めることとした。

⑥東海youth（山田）—

山行—バリエーションルートを主体に活動は順調に推移している。鋸岳登山も実施。寄贈を受けたアイゼン、ピッケル等の備品処分の為、各2000円で希望者に売却することとした。処分に当たっての優先順位は学連、青年部、東海ユース他とする。

⑦登山教室（山田）—4教室とも順調であるが、山ガール講座については山行参加者が少ない（先回も受講者17名に対し山行参加者は10名に留まった）

⑧支部報編集委員会（星）—支部報No. 136の原稿はほぼ出そろった旨報告あり。

⑨青年部（高橋）—

◆ 配布された11月7日開催の定例会議事録を基に補足説明。

※ 本部YOUTH CLUB主催にて来年1月25～26日開催予定の冬山・雪崩対策講習会に東海支部青年部から5名参加予定であるむね報告。

※ 上高地の山研を利用して、他支部と連携し青年部ミーティング開催を予定しているとのこと。

◆第1回名古屋アウトドアフェスティバル—東海支部への後援依頼—承認。青年部として山の歩き方のブース受け持つこととしたとの報告あり。

⑩自然保護委員会（南川）—11月度委員会議事録配布と同時に、来年東海支部担当で開催予定の第18回森の勉強会の概要説明。

⑪ボランティア委員会（前田）—11月3日開催した秋のブライント登山の結果報告と同時に、来年の知的障害者児のSON支援登山を4月12、13日朝明茶屋に決定した旨報告。

⑫遭難対策委員会（野呂）

遭難対策委員会の組織図を支部報に掲載予定である旨報告

⑬写真展実行委員会（井上）—今回は、今迄通りのパネル作成方法とすること及び業者は堀内カラー決めた旨報告。出展申込は今の所10人（14点）に留まっているが、70～80の出展

数を目指しているの、皆さんのご協力をお願いしたいとのこと。

⑭第5回森の音楽祭2013（毛利）一会計報告あり。

出席者：尾上、中世古、野呂、箕浦、小川、和田、柴田、山田、佐野、市川、星、南川、高橋、前田、井上

総務委員会 毛利邦男 記

ルーム日誌

- 9月-----
- 2日（月）支部友委員会
 - 3日（火）県岳連／支部報編集会議
 - 4日（水）青年部
 - 5日（木）写真展実行委員会
 - 6日（金）古道塩の道
 - 9日（月）登山教室委員会
 - 10日（火）青年部
 - 12日（木）自然保護委員会
 - 14日（土）東海ユース
 - 17日（火）ボランティア委員会／図書委員会
 - 18日（水）山行委員会第1山行グループ／総務委員会
 - 19日（木）東海学生連盟
 - 24日（火）リーダー会議
 - 25日（水）常務委員会
 - 26日（木）森の音楽祭実行委員会
 - 27日（金）支部報発送作業
 - 29日（日）東海ユース
- 10月-----
- 1日（火）NZトレッキング打ち合わせ
 - 2日（水）TNCC
 - 3日（木）写真展／青年部
 - 4日（金）古道塩の道／支部報編集委員会

- 7日（月）支部友委員会
 - 8日（火）県岳連
 - 10日（木）自然保護委員会
 - 12日（土）ルーム清掃
 - 15日（火）登山教室委員会／ボランティア委員会
 - 16日（水）山行委員会第1山行G／総務委員会
 - 17日（木）東海学生連盟
 - 18日（金）森の音楽祭実行委員会
 - 19日（土）東海ユース
 - 21日（月）図書委員会
 - 23日（水）常務委員会／支部報編集会議
 - 25日（金）亀の会運営会議
 - 26日（土）森の音楽祭
 - 28日（月）山行打ち合わせ
- 11月-----
- 1日（金）古道塩の道
 - 5日（火）県岳連
 - 6日（水）TNCC／支部友委員会
 - 7日（木）青年部／写真展実行委員会
 - 11日（月）登山教室委員会
 - 12日（火）東海ASC
 - 14日（木）自然保護委員会
 - 18日（月）図書委員会
 - 19日（火）ボランティア委員会
 - 20日（水）山行委員会第一山行G／総務委員会
 - 21日（木）東海学生連盟
 - 22日（金）森の音楽祭反省会
 - 24日（日）東海YOUTH
 - 26日（火）支部報編集委員会
 - 27日（水）常務委員会

会員異動

入会：今津英一郎(15408)名古屋市千種区向陽町3-16 052-761-8418
総務委員会 酒井 広 記

INFORMATION

【総務委員会からのお知らせ】

新年懇親会及び新人オリエンテーションのご案内

日時：平成25年1月11日（土）

受付：16時00分～

◆オリエンテーション

16時30分～17時45分（オリエンテーションのみの参加も可）。

最近数年間に日本山岳会に入会された方、及び現在支部友会の方を対象に日本山岳会全体及び東海支部の活動のポイントをご紹介し、より充実したクラブライフを楽しんでいただくためのオリエンテーションを開催します。

内容：日本山岳会の活動の紹介及び東海支部の活動の紹介

◆新年懇親会 18時～20時30分

場所 高砂殿（The Grand Tiara）4階
名古屋市中区富士見町10-27
電話 052-323-1122

東海支部ルーム南隣

第1部 挨拶と講演

4階「鳳凰」 18時～19時15分

- ・支部長新年挨拶
- ・来賓挨拶
- ・講演「広島支部のユニークな支部活動」
講師 広島支部長 兼森志郎氏

第2部 懇親会 19時20分～20時30分

- ・懇親会費 6,000円（新人オリエンテーションのみの方は無料）

◆出欠の有無を12月にお送りしたハガキでご連絡ください。(欠席の場合も)

総務委員長 佐野忠則

【写真展実行委員会からのお知らせ】

第14回東海岳人写真展作品募集のお知らせ】

岳人写真展を下記の要領で開催いたします。日頃の山岳会会員としての登山の中で出会った美しい景色や感動した瞬間を写し撮った作品を奮ってご応募ください。高級なカメラで撮った写真だけでなく、コンパクトデジカメで撮影した写真でも大丈夫です。

1. 期 日 平成26年3月25日(火)～30日(日)
2. 会 場 名古屋市中区 市民ギャラリー栄
3. 出品費用 13,000円
4. 募集期間 11月15日(金)～1月15日(水)
5. 募集詳細 募集のお知らせ、応募用紙が支部報10月号に同封されています。また、東海支部のホームページからのダウンロードも出来ます。メニューの「写真展実行委員会」をクリックしてください。

6. 問合せ お問い合わせは下記の写真展実行委員までお願いします。

7. 写真展実行委員

委員長 井上寛之

副委員長 今田英司

委員 生田芳章 箕浦靖夫 増田千恵子

坂本 孝 葛谷凱治 山内 薫

杉浦吉治 櫻井晴彦

【写真撮影山行のお誘い】

写真展に向けて、下記のように撮影山行を企画していますので、ご参加ください。

1. 上高地、大正池

期日 1月 2～3泊/交通手段 自動車

雪の大正池、上高地、穂高連峰、霧氷

2. 雪の西穂山荘周辺

期日 1月中頃 1～2泊/交通手段 自動車

厳冬の西穂山荘周辺、白銀の北アルプス

*山行期日、行程などの詳細は参加希望者との相談で決めます。

*申込み・問い合わせは、井上(090-6590-6669、hinoue@sb.starcat.ne.jp)、または写真展実行委員まで連絡してください。

“徳本峠越えとウエストーン祭”

に参加しませんか？

本部. 山岳研究所運営委員会主催の“徳本峠越えとウエストーン祭”が6月の第一日曜日に実施されます。他支部の方達と一緒に歩く企画ですが、東海支部では集会企画小委員会で募集致します。

募集人員に限りがありますので、ご希望の方は出来るだけ早くお申し込みください。

タイトル：徳本峠越え 2135m とウエストーン祭

日 時：平成26年5月30日(金)～

6月1日(日)

集合場所：JR 春日井駅 AM7:30

行 程：5/30 木祖村、水木沢天然林トレッキング (3時間、散策)

5/31 徳本峠越え (9時間、徒歩)

6/1 ウエストーン祭&信濃支部主催の午餐会(西糸屋)

宿 泊：5/30 石川旅館(新島々)

5/31 JAC 山岳研究所(上高地)

参加費：28,000円 (徳本峠越え参加費&交通費&民宿代)

定 員：10名

ポイント：山野草が咲きほこる 古の街道を昔の人々を偲びながら 徳本峠へ。峠からウエストーンが涙したという前穂高の雄姿を眺め山研へ。 夜は懇親会。

翌日 ウエストーン祭終了後、信濃支部及び山岳関係者の方々と西糸屋で午餐会に参加します。

申込み先：松本 陽子

〒487-0013 春日井市高蔵寺町 3-4-8

メール yo-kom@nifty.com

編集後記

明けましておめでとうございます。雪の便りが伝えられますが、装備に十分注意し安全登山をお願いします。

さて、新年早々、通常国会で8月11日「山の日」が、議員立法として上程されます。国民の祝日として、山の恵みに感謝し、自然環境だけではなく、アルピニズムを次世代に大切に引き継いでいく日でありたいと思います。

編集委員一同、今年も、東海支部の活動とメッセージを正確に伝えていきたいと思います。

星 一男



観光庁長官登録旅行業第490号/(社)日本旅行業協会正会員

ALPINE ツアー サービス

海外トレッキング/世界の山旅 専門旅行会社
まずは「ツアーカタログ」ご請求下さい
個人&グループでのご利用お待ち申し上げます

名古屋営業所 TEL : 052-581-3211

〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-6 第2千福ビル8階

FAX: 052-561-8338 E-mail: nagoya@alpine-tour.com

ホームページ <http://www.alpine-tour.com>



ATLAS TREK

ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。

観光庁長官登録旅行業第1167号/(社)日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック

名古屋サービスデスク TEL: 052-788-2422

(東京本社転送電話)

【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町25番地 三栄ハウス202

TEL: 03-3341-0030 FAX: 03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp

ホームページ <http://www.atlastrek.co.jp/>

SINCE 1975

mont-bell

ウェア・ギアに
遊び心も揃えて
お待ちしております!

アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に揃う
「モンベルストア」へ。



Outlet 名古屋店

愛知県名古屋市中区栄3-18-1
ナディアパークロフト6階

Outlet 名古屋みなと店

愛知県名古屋港区品川町2-1-6
イオンモール名古屋みなと3階

各務原店

岐阜県各務原市那加置場町3-8
イオンモール各務原2階

Outlet 長島店

三重県桑名市長島町浦安368
三井アウトレットパークジャズドリーム長島2階

鈴鹿店

三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2
イオンモール鈴鹿1階

新静岡店

静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1
新静岡セノバ4階

Outlet アイコンのある店舗では、ファクトリーアウトレット商品も取り扱っています。

モンベル・カスタマー・サービス

☎0088-22-0031/TEL.06-6536-5740 www.montbell.jp

※フリーコールは携帯電話からはご利用いただけません。

公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成

西山行政書士事務所

〒460-0002

名古屋市中区丸の内3丁目1523番地大栄ビル204号室

TEL : 052-961-6506

FAX : 052-961-6507

URL : <http://www.nygs-office.com/>

facebook : <http://www.facebook.com/nygs.office>

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号

TEL (052) 451-6656 FAX (052) 451-6657

E-mail: ta@asai-rbs.co.jp

◆◆◆◆◆ OMC ◆◆◆◆◆

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014

名古屋市中区富士見町8番8号

◆◆◆◆◆



(株)ワークシステムサービス

一般社団法人 日本自動車運行管理協会

一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- ・一般貸切旅客事業
- ・車両運行管理事業
- ・愛知県知事登録旅行業
- ・労働者派遣業
- ・ビル清掃管理事業
- ・介護支援事業

〒465-0021 名古屋市長東区猪子石3丁目113番地

TEL 052(779)8777(代) FAX 052(779)0031

<http://www.work-system.co.jp/>